

---

2019 年

# 4 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

### 新たなブランドづくり

#### 下呂農林■エゴマ 新品種「飛騨小坂おんたけ1号」の栽培を推進

4月27日に、下呂市小坂町内で「飛騨小坂あぶらえ生産組合」通常総会が開催され、平成31年度事業計画等について協議された。

農業普及課は、総会後に研修会を開催し、平成30年度に品種登録申請された「飛騨小坂おんたけ1号」の取り扱いについて生産者に対して周知を図るとともに、収量向上に向けた排水対策、雑草対策等について説明した。

農業普及課では、栽培技術のさらなる向上、新品種を軸としたエゴマのブランド化に向け、関係機関と連携し今後も支援を継続する。



【新品種について周知】

#### 革新支援センター■花き フランネルフラワー新品種「ファンシーマリエ」の販路拡大

フランネルフラワー「ファンシーマリエ」は、岐阜県農業技術センターが育成した本県オリジナルの花きであり、春にも秋にも長い花茎で大輪が咲く“希少性”が評価され関心が高まりつつある。

そこで、農産園芸課、農業技術センター、花き市場及び花き仲卸店と連携し、東京の花き市場において生花店主並びにフラワーデザイナー等に広くPRを実施した。

輸入ものに比べ、鮮度はもちろんのこと品質や可憐な花等へ高い評価をいただくとともに、増産を要望された。

また関係市場からは、母の日から秋のブライダルシーズン、クリスマスまでの出荷延長を依頼された。

今年度は、関係者の連携を一層深め、高品質な周年出荷体制を構築するための試験栽培に取り組むとともに、さらなるPRにより付加価値向上を目指す。



【来場者への説明状況】

### 多様な担い手づくり

#### 岐阜農林■スマート農業 第1回スマート農業実証コンソーシアム会議を開催

4月11日、JAぎふ巣南支店にて、超低コスト輸出用米スマート農業実証コンソーシアムの第1回会議が開催された。

この会議は、瑞穂市にある（農）巣南営農組合が国のスマート農業加速化実証プロジェクトにて、無人トラクター等を導入し、輸出用米の超低コスト生産実証に取り組むこととなり、今年度の実行計画等を検討するため開催されたものである。

会議には、巣南営農組合をはじめ、岐阜農林事務所や県農政部担当課、瑞穂市、JAぎふ、JA全農岐阜県本部、（一社）岐阜県農業会議、農機メーカーなどの関係者が出席した。

農業普及課は、関係機関と連携し昨年度の実証計画立案から支援してきたが、プロジェクトが始動する今年度は、進行管理役及び普及指導機関として、経営管理・生産技術の指導と実証内容の検証を行う予定であり、このプロジェクトを通してスマート農業技術の定着に向け、調査や指導を進め地域への普及に取り組んでいく。



【関係者で方針を検討】

## 中濃農林 ■ 中濃地域営農推進会議・中濃就農支援協議会議 中濃地域の営農と担い手確保を推進

中濃地域では、農林事務所、市、JA、NOSA I等の農業関係機関が定期的（月1回）に一堂に会し、情報交換や共有、活動の連携強化を図っている。

4月26日に第1回を開催し、農業普及課として今年度は、集落営農の組織化、法人化を2地域で推進すること、GAP導入やスマート農業を、それぞれ2法人3組織、2戸において実践すること、新たな導入品目としてさつまいもの面積拡大と組織化等を進める計画を報告するとともに、連携・協力を要請した。

今後は、関係機関との連携を密にし、計画実現に向けた活動を展開していく。



【会議の様子】

## 恵那農林 ■ 水稲 中津川市苗木スマート農業協議会が設立—第1回検討会・研修会を開催—

中津川市苗木地区では、国事業を活用し、スマート農業技術を組み入れた営農技術体系を検討する取り組みを開始した。4月11日、生産者（2個人と1法人）・JAひがしみの・中津川市・中山間農業研究所中津川支所・恵那農林事務所で構成する苗木スマート農業協議会の設立総会が開催され、協議会規約や事業計画の検討と併せ、岐阜大学・田中助教を講師に招いての水稲のリモートセンシング（遠隔観測）技術に関する研修が行われた。

協議会では、ドローンを活用した農薬散布を始め、リモートセンシングを活用した適期施肥管理技術や自動開閉水門を使った水管理の省力化・節水技術などを検証し、地域への普及を検討していくこととしており、農業普及課も協議会構成員として事業推進支援を行っていく。



【検討会・研修会の様子】

## 郡上農林 ■ だいこん スマート農業技術を活用してうね立て実演

4月18日、郡上市高鷲地域のだいこん生産ほ場で、農業法人、農機メーカーや関係者を集めてスマート農業技術の実演会を開催した。

今回は、だいこん栽培において熟練の技術を要するうね立て作業を、ガイダンスシステムと自動操舵システムを用いて実演した。

通常のうちね立て作業は、ほ場の形状に合わせて直進することが難しく、経験のある農家でも技術と集中力を要する作業であるが、ガイダンスシステムと自動操舵により容易にまっすぐできれいなうねを立てることができた。

実演において65馬力のトラクタに乗った20代女性従業員は、「思ったより設定操作が簡単だった。私でもうね立てできそうです」と好感触を得たようであった。

農業普及課では、今後も実演・実証を通じて、だいこん栽培に適したスマート農業技術の導入支援を行っていく。



【実演の様子】

## 売れるブランドづくり

### 西濃農林 ■ (有) 健康やさい村 グローバルGAPを認証

GAP認証取得に取り組んでいる(有)健康やさい村では、2月にグローバルGAPの審査を受けて、指摘があった改善点を是正し4月3日に正式にグローバルGAPの認定通知を受けることができた。グローバルGAPは食品安全、労働環境、環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践する優良企業に与えられる世界共通ブランドで、管内では初の取得となる。

農業普及課は平成29、30年にアドバイザー派遣事業を活用した講師による指摘事項を中心に、JAにしみのと連携して改善にむけての助言・指導を行ってきた。今後も活動支援を行う。



【(有) 健康やさい村の社員】

### 揖斐農林 ■ 水稲 坂内龍神米の生産スタート

4月24日に揖斐川町坂内地区で「坂内龍神米(コシヒカリ)作付け前研修会」が開催された。JAいび川は坂内産コシヒカリの中で、生産者が「天昇会」の会員であること、龍神米栽培暦により管理されていること、1等米であること等の基準を満たした坂内産コシヒカリをプレミアム米に位置づけ取り扱っている。

平成30年は猛暑、台風21号の影響を最小限に抑え、品質、食味とも優れた坂内龍神米が生産出荷された。研修会には天昇会、JAいび川、揖斐農林事務所が出席し、昨年以上の出荷を目指し販売方針の確認が行われた。普及課から整粒率と味度の関係について、他産地のコシヒカリの事例を説明し情報提供した。

田植えは5月中旬から計画されている。作付け後展示ほを設置し、定期的に研修会を通じて、気象変動や地域、生産者によるバラツキを少なくする栽培管理の支援を行う。



【研修会で情報交換】

### 飛騨農林 ■ スナップエンドウ 現地研修会を開催(吉城地域)

飛騨地域では数年前からスナップエンドウを各地域で栽培しており、平坦地の産地の出荷が終わった期間(5~6月)に出荷しているため安定した単価で取引されている。

4月24日、吉城蔬菜出荷組合露地部会豆部のスナップエンドウ現地研修会が開催され、生産者19名が出席した。

研修会では、ほ場主である生産者から栽培状況について、霜害もなく順調に生育しているとの説明があった。また、農業普及課から今後の栽培管理について指導を行い、追肥と霜害対策の徹底を図った。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、スナップエンドウの安定生産を支援していく。



【研修会にて技術指導】

## 住みよい農村づくり

### 可茂農林■美濃白川就農応援会議 移住相談員との意見交換会

4月8日、美濃白川就農応援会議のあすなろ農業塾長とぎふ移住・交流センター相談員(東京・名古屋・大阪)との意見交換会が白川町で開催され、塾長4名、相談員3名と農林事務所等関係機関が出席した。

この意見交換会は、新規就農のための研修生募集に力を入れる当会議、地域や農業の現状、研修生の受入れ状況など、現地生情報を相談員に伝えることを目的に、可茂農林事務所と共同企画したものである。

当日は、トマト生産者の栽培ほ場において農業の現状について説明し、その後、農業研修交流施設「黒川マルケ」有機農業の移住者も交えて活発な意見交換が行われた。

農業普及課は、今後も研修拠点の活動を積極的に支援していく。



【意見交換会の様子】

### 東濃農林■集落営農 多治見市北部地域の営農に関する意見交換会を開催

4月24日に多治見市南姫公民館で、北部営農組合が運営するライスセンターに関する意見交換会が開催され、地元利用者35名と、多治見市、JAとうと、農業普及課が出席した。

北部ライスセンターが老朽化しており、今後の運営について検討が行われ、その結果、ライスセンターの再整備や運営管理の見直しを進めるため、新たな営農組織づくりに取り組むこととなった。また、農業普及課からは、当地区の農地を守るための仕組みづくりについても検討を行うように提案を行った。

これを機に、北部営農組合の役員と各地区代表者による話し合いが始まるため、農業普及課では、関係機関と連携し、多治見市北部地域の営農組織づくりを支援する。



【意見交換会の様子】